

## 令和4年度 県立新庄北高等学校 学校評価書【全日制】（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	知・徳・体に調和のとれた豊かな人間性を育て、国家および社会の有為な形成者として、一人ひとりがその能力と特性をいかんなく発揮できる人材の育成を目指す。
--------	--

重点目標	1 組織力の向上と働き方改革の推進	自己評価		学校関係者評価	
	2 学力の定着と向上	達成度		評価基準	
	3 生徒指導の充実	A	達成	4.2以上	
	4 キャリア教育お進路指導の充実	B	概ね達成	3.0以上	
	5 地域との協働による学校改革の推進(LINKネクスト)	C	やや不十分	2.1以上	
	6 開かれた学校づくりの推進	D	不十分	2.0未満	
			評価	A	十分評価できる
			B	まずまず評価できる	
			C	一部見直しが必要	
			D	根本的な見直しが必要	

自己評価(教員)						学校関係者評価		
番号	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況、達成にむけた具体的方策・取組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策	評価	意見・要望・評価等
1	教育方針 学校経営	教育課程は、地域の期待や教育目標に応じて設定。	4.1	1年次からの新教育課程は、適切に設定できた。校務分掌間の連携については評価が昨年度より改善されたが、業務量の見直しは継続していく必要がある。	B	教育課程の着実な実施と、適切な校務分掌の配置が必要である。新高校に向けた業務を考慮し、分掌間の連携を密にしていける必要がある。	B	新高校の在り方については市民に対し積極的に情報発信してほしい。 業務量の見直しや分掌間の連携についての取り組みを今後も継続してほしい。
		校務分掌間の連携。	3.7		B			
		適切な校内人事・校務分掌の配置。	3.5		B			
2	学習指導	年間学習指導計画の適切な運営。	4.1	年間学習指導計画のもと、学力向上に取り組んだことは評価できる。生徒による授業評価を行い、授業改善に努めたが、指導力向上のための研修や授業研究等の充実に取り組んでいく必要がある。	B	指導と評価の一体化の観点から、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を継続していくとともに、一人一台端末を活用したICT教育をさらに推進していく。	B	ICT教育については、通信環境の充実が欠かせない。他校と連携し県に要望していくべき。 ICTも重要であるが、人と人との交わりによって学ぶことも重要である。 地域に出た学びが深まっていると感じる。
		わかる授業の展開。	4.1		B			
		県の基幹校として学力向上。	4.2		A			
		教職員の研修体制の充実。	3.6		B			
3	生徒指導・ 施設設備	いじめ防止・体罰防止に関して適切な対応。	4.1	いじめや体罰防止は学校全体で取り組むことができた。多様な生徒が増えており個別に丁寧な対応を心がけた。コロナ禍のもとではあったが、学校行事はほぼ計画通り実施できた。校舎等の施設については老朽化もあり、暖房等に課題が残る。	B	いじめ・体罰には厳しく対応し、未然に防ぐ体制を構築する。情報モラルや自転車等の交通マナーについても指導を継続していく。職員研修会等を実施し生徒の健康、安全等の指導の充実を図る。	B	障害の有無に加え、LGBTを意識した対応が、多様性のある社会形成に求められている。 いじめに対しては、早期発見や発覚してからの対応や接し方が重要である。 交通道徳はもちろんのこと、高校の3年間は人格形成に大きな影響を与える時間だと考える。
		生徒会・部活動の充実。	4.0		B			
		教職員は、生徒の悩みや相談への親身な対応。	4.3		A			
		生徒の健康、安全、防災に対する指導の充実。	4.0		B			
		清掃指導はじめ校内美化の強化。	4.0		B			
4	進路指導	3年間を見通した進路指導計画。	4.3	全職員の協力を得ながら個に応じた進路指導が展開できた。進路講演会や入試説明会を通して生徒・保護者に機会を捉えて情報提供を行うことができた。	A	3年間を見通した進路指導を計画的に実施する。推薦・総合型選抜には全職員で取り組み、多様な進路希望に対応できる指導体制を充実させていく。	A	細やかな進路指導がなされていると思う。 生徒、保護者の希望にそった進路指導をこれからも期待する。
		個々に応じた進路指導が適切な取組。	4.3		A			
		生徒と保護者に適切な進路情報の提供。	4.4		A			
5	地域連携・ その他	学校情報や活動内容を地域に公開。	3.5	LINKプロジェクトを継承したLINKネクストは年次・分掌と連携した運用を行った。探究活動の成果が総合型選抜に生かされた事例があった。	B	探究活動と進路指導を結びつけるため、今後も検討が必要。業務の見直しを行い、適切な勤務実態を実現する。	B	探究活動の成果の活用は非常に重要と考える。地域への成果移転も検討してほしい。 学校、家庭、地域の連携はいつの時代にも重要な課題である。
		地域や保護者との連携。	4.1		B			
		適切な勤務実態と健康管理の徹底。	3.6		B			

自己評価および学校関係者評価の改善点	コロナ禍のもと「新しい生活様式」を踏まえた学校経営ができた。一人一台端末が整備され、ICT教育が徐々に浸透したが、なお一層の充実を図る必要がある。新学習指導要領が1年次で実施され、2年後の完全実施に向け、「社会に開かれた教育課程」のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善に取り組んでいくことが必要である。多様な進路希望に対応した進路指導が求められるなかで、今年度は探究活動を結びつけ良い結果を出すことができた。「LINKプロジェクト」は、内容を整理し「LINKネクスト」として継続した。また令和8年度開校予定の新庄新高校(仮称)の準備も進めていく。
--------------------	---